

健康診断・がん検診等の「二次検査 予約専用ダイヤル」

重大な病気こそ、早期発見・早期治療が大切!
 「はり姫」では一次健診(健康診断・がん検診等)はおこなっていませんが、一次健診で「要再検査」「要精密検査」と判定された項目の二次検査を**患者さんから直接予約**していただける「二次検査 予約専用ダイヤル」を開設しています。詳しくは「はり姫」ホームページをご覧ください。

対象診療科	再検査・精密検査の対象項目
総合内科	<ul style="list-style-type: none"> 内科検診(心雑音以外) 総コレステロール、HDL、LDL、中性脂肪 総蛋白・アルブミン、LDH(AST・ALTの上昇が無い場合) コリンエステラーゼ、尿酸、カルシウム 腫瘍マーカー CRP・CPK 腹部超音波検査(リンパ節・その他)
循環器内科	<ul style="list-style-type: none"> 内科検診(心雑音) 心電図検査 胸部X線検査(心拡大)
糖尿病・内分泌内科	<ul style="list-style-type: none"> BMI 血糖、HbA1c、尿糖 TSH、遊離T3、遊離T4 腹部超音波検査(副腎)
消化器内科	<ul style="list-style-type: none"> AST、ALT、γGTP HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体 アミラーゼ バリウム・胃内視鏡検査、便潜血 ABC検診(ピロリ判定・ヘブシノゲン) 腹部超音波検査(肝・胆・膵・脾・腸管)
腎臓内科	クレアチニン、尿素窒素、尿潜血、尿蛋白
呼吸器内科	胸部X線検査(心拡大以外)
脳神経外科	脳ドック異常
産婦人科	子宮頸部細胞診検査、腹部超音波検査(子宮・卵巣)

予約・受診の流れ

- ① お手元に
 - 健康診断結果
 - 筆記用具(予約日時を書き留める用)
 をご用意ください。
- ② 「二次検査 予約専用ダイヤル」におかけください。

電話番号：090-1693-3966
 受付時間：(平日)月～金曜日の11時～13時

 次のことをお聞きします。
 - 検査結果、受診希望の二次検査の内容
 - 当院(旧姫路循環器病センターまたは旧製鉄記念広畑病院含む)の受診歴(分かる場合は診察券に記載された患者番号)
 - 受診される方の氏名、性別、生年月日、ご連絡先 など
- ③ 受診当日は、**予約時間の30分前**に必ずご来院ください。

ご持参いただくものや受付方法など詳細は、「はり姫」ホームページをご覧ください。



良質な医療を、良質なチームで。
兵庫県立 はりま姫路総合医療センター
 〒670-8560 兵庫県姫路市神屋町3丁目264番地
 TEL: 079-289-5080
 FAX: 079-289-2080
 HP: <https://hgmc.hyogo.jp>

【お車で】お越しの方

- 【姫路バイパス】
 - 姫路南ランプから9分(3.5km)
 - 市川ランプから7分(2.6km)
- 【播但連絡道路】
 - 花田インターから11分(4.4km)

【電車・バスが徒歩で】お越しの方

- 【JR神戸線】
 - 姫路駅から12分(910m)
 - 東姫路駅から9分(710m)
- 【JR播但線】
 - 京口駅から12分(950m)
- 【バスで越しの方】
 - 姫路駅北側バスターミナル5番のりばから
 - 26系統：東姫路駅行き
 - 26系統：阿保車庫行きに乗り
 - 姫路駅南側バスターミナル22番のりばから
 - 92系統：白浜海岸行き
 - 93系統：東山循環 または 的形循環行きに乗り

病院北側「県立はりま姫路総合医療センター前」で降車

兵庫県立はりま姫路総合医療センター 広報紙

はりひめ

No.05 2026年3月31日発行



“治す”だけではない、“その人らしい暮らし”の再構築をめざす 高度な専門性×多職種連携のがん治療

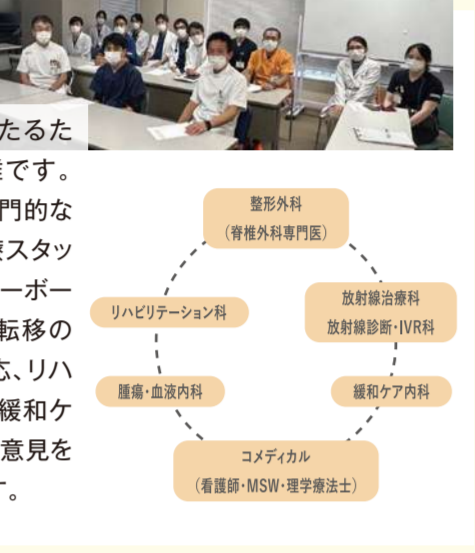
「はり姫」は、兵庫県が指定するがん診療連携拠点病院（兵庫県内の各地域において質の高い標準的がん医療を提供する、地域がん医療の中核病院）です。患者さんが住み慣れた地域で安心して治療を受けられる体制を整えています。

検査・診断

がんの正確なステージや広がりや診断する高精度な画像診断システム、体への負担を抑えながら確実な組織採取をおこなう生検や最新鋭の内視鏡検査、提出された検体を迅速に病理診断する体制などによって、患者さんやご家族に精密な治療方針を提案できます。また、診療科の垣根を超えたチームが、治療の質と安全性を支えています。

骨転移がん治療ボード

骨転移に対する治療は多岐にわたるため、一つの診療科での対応は困難です。「はり姫」では、骨転移に関する専門的な知識を有する医師やその他の医療スタッフが一堂に会する「骨転移がん治療ボード」を月1回おこなっています。骨転移の診断、手術治療や放射線治療の適応、リハビリテーションの必要性、安静度、緩和ケアなど、多岐にわたって各診療科の意見を集約して治療方針を決定しています。



メンバー：整形外科（骨腫瘍専門医）、放射線治療科、放射線診断・IVR科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、腫瘍・血液内科、コメディカル（看護師・MSW・理学療法士）

治療

手術・薬物療法・放射線治療——がんの治療にはいくつもの「やり方」があります。患者さんのQOL（Quality of life/患者さん自身が感じる“生きること”の質）を念頭に置き、患者さんやご家族のご要望に寄り添いながら、より「やさしい」方法を選択していきます。消化管がん（胆道がん・膵臓がん）の手術やその検査に不可欠なERCP、頭頸部がんの再建技術を伴う手術等に豊富な実績があります。

内視鏡手術

内視鏡と専用開発された器具で、体内の様子をモニター表示しながらおこなう手術

単孔式手術

すべての手術操作を1つの孔（あなた）でおこなう内視鏡手術で、患者さんのからだに残る傷は、たった1ヶ所（通常、4～5つの孔が必要）

ロボット支援手術


人間の手よりも繊細に稼働するロボットアームを用いる内視鏡手術

おもな低侵襲手術

緩和ケア

緩和ケアとは何か？ 決して「あきらめの医療」ではありません。むしろ、病とともにあっても、その人らしい輝きを失わずに生き抜くための前向きな医療です。緩和ケアは、病とともに生きるあなたとご家族を照らす、あたたかな「灯火」となります。「はり姫」には「がん相談支援センター」も設置しています。がんと共に生きていくために、がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて、一般的な情報の提供や問題の整理をお手伝いします。

はりひめ No.02「はり姫のがん治療の選択肢」でも、緩和ケアを特集しています。

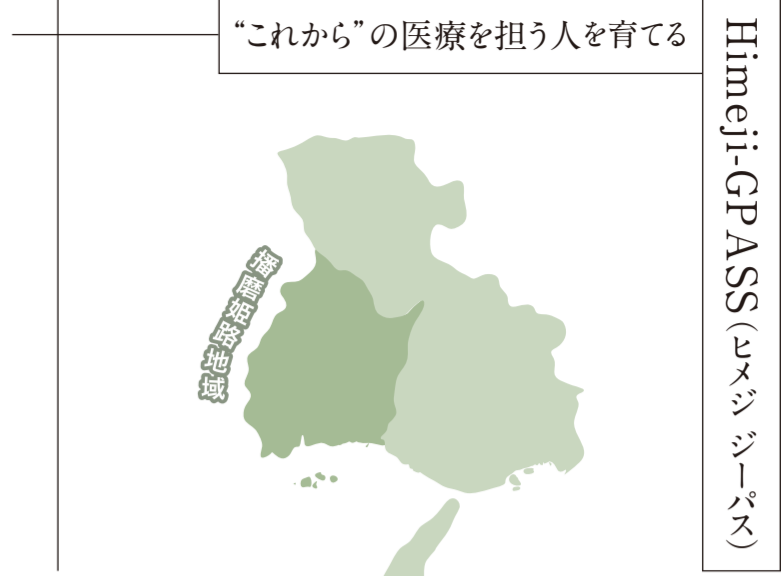


がん看護専門看護師 松本 仁美

早期発見


たった1～2年で、がんは大きく進行します。ステージ1で小さいうちに発見できた早期がんは治る可能性が高いですが、自覚症状がほとんどないのも特徴です。健康診断の再検査・精密検査項目に対して、（自覚症状がないからといって）自己判断をするのは非常に危険！「はり姫」でも二次検査ができますので、ぜひご活用ください。

二次検査について詳しくは裏表紙をご覧ください。



高齢化が進む昨今、複数の病気を抱える患者さんが増え続けています。これからの地域で県民のみならず、診ていく医師は、専門性が高くて裾野が狭い「スカイツリー型」ではなく、自身の専門領域に加えて幅広い疾患に対応できる横断的な診療能力を兼ね備える「富士山型」になることがいっそう求められます。3～5年をかけて地域医療・救急医療を担う医師を育成する「Himeji-GPASS (Himeji-GPASS General Physician with Advanced Specialty Skills Program)」を、2026年4月から神戸大学などと連携しながら本格稼働します。

地域医療や救急医療を支えるには、幅広い臨床力をもつ医師が不可欠です。しかし医師にとっては、総合力だけでなく“きらりと光る得意分野”を磨くことも大切です。現在の医師教育は、一つの専門分野を長い年月をかけて磨く仕組みが中心で、総合力との両立は簡単ではありません。総合力と専門性を同時に育てる挑戦——それが、地域医療と救急医療を支える新しい医師育成のかたち、Himeji-GPASSです。



総合内科 診療科長 八幡 晋輔

診断から治療まで、「はり姫」は患者さんを“迷子”にしません。

患者さんの負担を抑えた「良質な医療」の姿の一つとして、複数の専門領域にまたがる症例でも診断から治療、緩和ケアまでを院内で包括的に担うことをわたしたちは大切にしています。

診断がつかずに困っていたら内分泌疾患だった

内分泌疾患の患者さんの検査や治療を院内で完結できる施設は県内でも数少ないです。例えば20～30代で若いのに何度も骨折したり血圧が異常に高いなどといった不自然な症状があるときは、ホルモン分泌に異常が生じている可能性があります。お調べしますので、かかりつけ医の先生にご相談ください。

内分泌疾患の院内連携例

筋力低下で首が支えられず、他院整形外科より「はり姫」に転院。糖尿病・内分泌内科も併診したところ、副腎腫瘍が原因のクッシング症候群と判明。泌尿器科で副腎腫瘍を摘出した結果、筋力低下も糖尿病も高血圧も軽快した。

骨粗鬆症の治療中、血液検査をきっかけに副甲状腺腫瘍による原発性副甲状腺機能亢進症と診断。頭頸部外科での副甲状腺腫瘍摘出術後、カルシウムは正常化し、骨粗鬆症も改善。

繰り返す圧迫骨折、無月経、尿路結石の原因精査で「はり姫」で下垂体腫瘍が原因のクッシング病と診断。薬物療法では効果不十分、手術治療前提で脳神経外科を併診中。

飯田 啓一 糖尿病内分泌センター長

「治療法がなくて苦しかった」に、これからは応えていきたい

皮膚疾患への生物学的製剤投与

従来は外用剤で様子を見るしかなかった尋常性乾癬の症状が、生物学的製剤を投与して1週間のみみる改善した例は珍しくありません。「はり姫」では、多くの炎症性皮膚疾患や脱毛症に対して、外科的治療や抗体製剤・分子標的薬といった生物学的製剤の使用も、柔軟におこなっています。私たちは、日本皮膚科学会が承認している生物学的製剤はすべて扱っています。もちろん薬によって患者さんに合う合わないがあります。そのあたりの判断も経験を重ねていますのでお任せください。かかりつけ医の先生と丁寧にコミュニケーションをとりながら対応します。

皮膚科 診療科長 固定 充



目標は、全国区の“最後の砦”

数字で見ると、はり姫の救急医療

- 2024年度救急搬送件数における、重篤患者（厚労省の定義による）さんの割合。搬送件数、重篤患者割合とも、近隣で最も多くなっています。 **16%**
- 2024年度「はり姫」新規入院患者数における、救命救急センターからの入院割合。結果的に非常に多くの診療科・部門が救急診療に携わっています。 **33%**
- 2022 **66.0%** ▶ 2023 **69.5%** ▶ 2024 **74.0%**

EICU・CCU(20床)の病床稼働率。循環器内科・救急科でベッドを流動的に運用するなどして、繁忙期においても重症患者さんの受け入れができる状態を維持しています。

救急科 診療科長・救命救急センター長 高橋 晃

24時間365日体制で小児医療を提供しています

「はり姫」開院前は、近隣で子どもの外傷（けが）を診れる施設が限られており、特に休日や夜間は神戸市内まで救急搬送されることもよくありました。「はり姫」では小児科や小児外科が拡充・新設され、救急科をはじめとした専門診療科と連携して子どもの交通事故やケガ、頭部外傷、骨折、やけどなどの外傷対応が可能となりました。少子高齢化がここ播磨地区でも進んでいますが、一人ひとりの「ケガも病気も、こころからだも」あらゆる面で健康を守り、地域医療の“最後の砦”でありたいと思います。

小児科 診療科長 忍頂寺 毅史

in 世界文化遺産・国宝姫路城

天守閣で人が倒れた!

年間150万人の人が訪れる姫路のシンボル、姫路城。昨年、姫路城から「天守閣の4階で、観光客の方が心肺停止になった!」と119番がありました。姫路医療センターの医師がドクターカーで駆けつけて当院に搬送。治療後、幸い後遺症もなく退院されたのですが、その大きな要因は「私たちが到着する前に、姫路城のスタッフの方や患者さんのご家族が、すでに適切な救命処置をとられていたこと」（永谷 研修 医）。観光客として居合わせた看護師の方も協力してくださったそうです。「心肺停止は、病院に到着するまでにどれだけ心臓マッサージがおこなわれたか、AEDで電気ショックができたかが、結果を大きく左右します。私たちが病院で命を救えるのは、市民の皆さんの協力があってこそだと思います」（循環器内科・宇城 医師）。

「ここ暮らしやす過ぎず」を支える、まちの人たち

私たちが月4回（年間約50回）防火訓練・救急訓練をしています。訓練と実際の現場では緊張感が異なりますが、このときも地下1階・4階・6階に1～2名いるスタッフがトランシーバーで連絡をとりあって6階からすばやくAEDを4階に持って降りるなど、一体感を持って迅速に対応してくれました。訪れた方に安心・安全に姫路城を観光していただけ環境を、これからも一つつくっていきたくと思います。

姫路城管理事務所 内田 亘さん